

.....
↓

バードウォッチング @ 田んぼ



田んぼの学校 バードウォッチングガイド

埼玉県環境科学国際センター

バードウォッチングってなにをするの？

野鳥を観察する趣味！
鳥を見るためのお散歩！
野鳥の暮らしをそっと見させてもらうこと！
数や行動を観察・記録すること！
.....



バードウォッチングってなにが楽しいの？

鳥がきれい・かわいい・かっこいい！
自然にふれられて気持ちいい・心がなごむ！
コレクションの楽しみ！
けっこう奥が深い！
自然の仕組みが分かるかも？



どこでいつできるの？

いつでも、どこでも、だれとでも（鳥がくらしている場所なら）！
自然観察会や探鳥会なら安心！
見たい鳥がいる場所に！

何が必要なの？

道具はなくても肉眼で鳥は見えるから大丈夫、でも！
双眼鏡やフィールドスコープがあるとびっくりするほど楽しめる！
図鑑で名前を調べることも大切！



世界の鳥、日本の鳥

野鳥は全世界で9000種類以上、日本では約550種類、埼玉県でも300種類以上が記録されています。

留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥

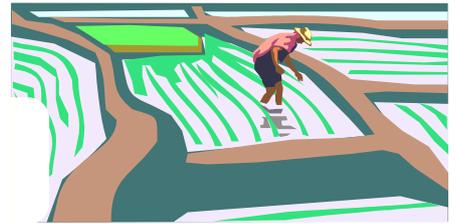
移動や繁殖などの暮らし方から、「留鳥」、「夏鳥」、「冬鳥」、「旅鳥」に分けることができます。

留鳥：一年中同じ地域で見られる鳥で、その地域で子育てします。

夏鳥：春から夏に見られる鳥で、春、東南アジアなどから日本に渡ってきて子育てし、秋に帰ります。

冬鳥：秋から冬に見られる鳥で、シベリアなどで子育てし、秋に日本に渡ってきて冬を越し、春に再び北へ帰ります。

旅鳥：春と秋の渡りの季節に見られる鳥で、日本より北で子育てし、南で冬を越します。



田んぼと鳥との甘い関係

ウエットランドとは湿地、河川、池、干潟、藻場など浅い開放系の水域を指す用語ですが、近年、その環境保全機能、とりわけ、高い生物多様性保全機能が注目されています。

田んぼ（水田）は、ため池や水路とともに人間生活との深い関わりの中で維持されてきた人工的なウエットランドです。ウエットランドとしての水田は米を生産する場だけではなく、カエルやドジョウ、メダカ、ヤゴなどの水生生物や、それらを餌とする野鳥などが暮らし豊かで多様な生態系を維持する機能も果たしています。

水田には様々な野鳥が暮らしていますが、特にサギ類（ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギ等）は、水田に生息する魚類や両生類などを主な餌としている鳥で、水田の生物環境の豊かさの指標となる生物です。

田んぼにはサギ類以外にも、シギチドリ類、ヒバリ、ツバメ、カルガモ、スズメなど多くの野鳥が生息し野鳥の生息地として重要な役割を果たしています。

双眼鏡の使い方

バードウォッチングは双眼鏡がなくても楽しむことは出来ますが、双眼鏡を使うことで野鳥の持つ野生の迫力をより強く感じる事が出来ます。また、野鳥をより詳細に識別するためにも必要な道具です。

双眼鏡の仕組み



使うまでのステップ

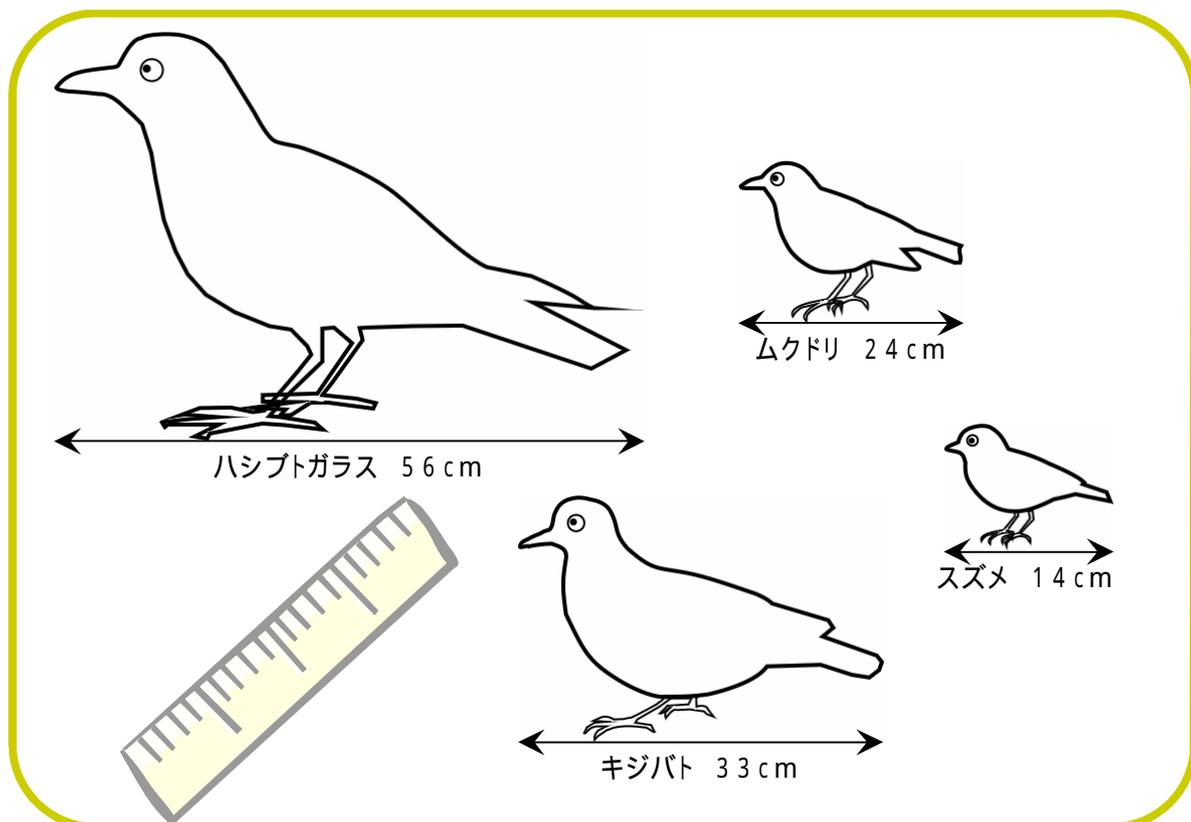
1. 目幅調整
双眼鏡を左右に開いて自分の目の幅に接眼レンズの幅を合わせます。目幅が合うと双眼鏡をのぞいた視野はひとつの円になります。
2. 視度調整
左目だけでのぞきながら、何か対象物を決めピント調整リングでピントを合わせます。次に右目を開け、視度調整リングで同じ対象物にピントが合うように調整します。
3. 鳥の観察
あとは鳥に双眼鏡を向けてピント調整リングでピントを合わせて観察しましょう。

注意

太陽は見てはいけません。目を傷つける可能性があります。

ものさし鳥をおぼえよう

野鳥の大きさを正確に判別することは難しいのですが、種類の分からない鳥を見つけたときに「スズメくらいの大きさの鳥」といったように、皆がよく知っている鳥をものさしに説明することがあります。このような鳥を「ものさし鳥」といいます。下の絵は代表的なものさし鳥です。



フィールドマナー

バードウォッチングをするとき、野鳥や自然やまわりの人に迷惑をかけないように心がける態度がフィールドマナーです。

知識とゆとりを持って、安全に行動するようにしましょう。

野鳥など野生動物は人を恐れるものが多く、大きな音や動作を警戒します。

静かに彼らを脅かさず楽しみましょう。

餌を与えることは野生動物の生態系に影響を与えることがあります。十分気をつけましょう。

人里近くのフィールドでは無断で畑などに入らないようにしましょう。

ゴミは家まで持ち帰って処理しましょう。

田んぼとそのまわりで見られる野鳥たち

1年中見られる鳥（留鳥）

スズメ <i>Passer montanus</i>	キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>	ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>
		
<p>体長：14cm 特徴：最も人間の身近にくらす鳥で山地や集落から人がいなくなると姿を消してしまう。草の実や昆虫などを食べる。夜は若鳥を中心に集団ねぐらをもち長距離移動するものもいる。つがいではなわばりを作るが巣の周囲だけなので巣が隣接していることも多い。人家の屋根のすき間などに球形の巣をつくる。声はやや濁った「チュンチュン」、「ジクジク」</p>	<p>体長：33cm 特徴：全体にやや紫色を帯びた灰褐色で翼や背は赤褐色味が強。首には黒と青褐色のうろこ状の模様がある。全国で普通に見られ、市街地の公園などにもいる。地上を歩いて草や木の実を中心に食べる。繁殖期はつがいでもくらし尾を広げ翼を水平に保って滑空するディスプレイ飛翔をよく行う。巣は枯れ枝を積み重ねた浅い皿形で木の横枝に作るが、建築物につくことも多い。</p>	<p>体長：17cm（スズメぐらい） 特徴：全体に褐色で後頭には冠羽があり時々立てる。繁殖期の雄は、複雑なさえずりをしながら空高く長い間飛び続けなわばりを宣言する。翼は幅広く飛翔時は三角形に見える。草の根元などの地面に浅い穴を掘って巣を作る。秋冬には数羽から十数羽の群れを作り地上で生活しているが人が近づくと「ビュルビュル」と鳴いて飛び立つ。埼玉県でも農耕地などに普通に生息し特に麦畑などに多い。</p>
ダイサギ <i>Egretta alba</i>	コサギ <i>Egretta garzetta</i>	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>
		
<p>体長：90cm 特徴：全身が白色で日本のシラサギ類では最も大きい。繁殖期には背に長い飾り羽を生じ、嘴は黒、眼先は青緑色となる。冬羽は嘴が黄色くなり眼先も黄緑色となる。水の中をゆっくり歩き、獲物を見つけると長い首をさっと伸ばして捕らえる。あしが長いので、深い場所もえさ場として利用することができる。</p>	<p>体長：61cm 特徴：最も普通に見られるシラサギ。全身白色で一年を通じて嘴が黒い。夏羽は後頭に2本の長い冠羽があり、背や胸に細長い飾り羽が出る。足は黒く、足指は黄色い。埼玉県内でも水田や河川敷で普通に見られる。</p>	<p>体長：57cm 特徴：成鳥は頭頂から後頸、背にかけて暗い紺色で後頸には数本の白い冠羽がある。下面は白く、翼は灰色で嘴は黒く、脚は黄色。普段は夜行性で昼間水辺近くの茂みで集団で休んでいる。夕方になると採食場へ向かい、魚類やザリガニを捕らえる。夕方に「グァッ、グァッ」とカラスに似た声で鳴くため「ヨガラス」の俗名をもつ。コロニ - をつくって繁殖する。</p>

田んぼとそのまわりで見られる野鳥たち

1年中見られる鳥（留鳥）

アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>
		
<p>体長：93cm 特徴：日本のサギ類の中で最も大きく、翼を広げると1.6mにも達する。体の上面は灰色で下面白く黒い縦すじがある。嘴と脚は黄褐色で眼先は黄緑色。繁殖期には嘴の基部、眼先、脚が赤い婚姻色になる。歩いたり、待ちぶせしたりして魚類やカエルを捕らえる。埼玉県内では、それほど多くはないが、河川や水田などで見ることが出来る。</p>	<p>体長：57cm 特徴：市街地などは最も普通のカラス。くちばしが太く、額は出っ張って見える。雑食性で市街地では生ゴミをあさり問題となっている。非繁殖期には群れでくらし早朝に採餌場へ飛び立ち、夕方ねぐらに戻る。数百羽から数千羽の集団ねぐらをつくることもある。タカ類やフクロウ類を見つくと追いまわす。繁殖期はつがいになわばりもち、皿形の大きな巣を樹上につくる。カー、カーと比較的澄んだ声で鳴く。</p>	<p>体長：50cm 特徴：最も普通に見られるカラス、ハシブトガラスよりも小さく嘴も細い。ハシブトガラスに比べやや農耕地を好む傾向があるが、同じ場所に両種が混在することも多い。非繁殖期は群れでくらし、ハシブトガラス同様、早朝に採餌場に飛び立ち、夕方ねぐらに戻る。繁殖期はつがいになわばりをもつ。ガー、ガーと濁った声で鳴く。</p>
カルガモ <i>Anas poecilorhyncha</i>	キジ <i>Phasianus colchicus</i>	カワセミ <i>Alcedo atthis</i>
		
<p>体長：61cm 特徴：一年中普通に見られる淡水ガモ。他のカモと違い雌雄が同じ色で、時期による色の変化もない。体は褐色で頭部には特徴のある黒線がある。嘴は黒いが先端にある黄色い部分がよく目立つ。適応性が高く、市街地や海水域などでもくらししている。植物質を中心に食べるが、水生昆虫なども食べると言われている。埼玉県内でも普通に見られ、湿地や、湖沼、水田の畦などで繁殖しており、1巣に10卵程度産卵する。</p>	<p>体長：雄81cm・雌58cm 特徴：日本の国鳥。狩猟用に放鳥もされているので見かけることも多い。ニワトリ大の大きな鳥で雄は顔は皮膚が露出して赤く、頸は紫色、胸から体下面は光沢のある緑色で極めて目立つ。雌は全体に淡黄褐色で黒褐色のまだら模様がある。雄は「ケン」「ケン」などと通る大きな声で鳴く。埼玉県では、農耕地や河川敷などでよく見られる。</p>	<p>体長：17cm（スズメぐらい） 特徴：背中は光沢のあるコバルトブルー、目の下と腹面はオレンジの美しい鳥。嘴は体にくらべ長くて太い、雄は嘴全体が黒いが、雌は下嘴が赤い。主に魚を食べホバリングから、あるいは、枝や杭から水中に飛びこんで獲物を捕らえる。水面近くを低く「ツイー」と鳴きながら一直線に飛ぶ。崖に穴を掘って巣を作る。埼玉県内でも湖沼、河川、農業用水路などで見られる。</p>

田んぼとそのまわりで見られる野鳥たち

1年中見られる鳥（留鳥）

ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>	セグロセキレイ <i>Motacilla grandis</i>	ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>
		
<p>体長：21cm（スズメぐらい） 特徴：雄の夏羽は頭頂から背、腰までと前頸から胸、過眼線が黒い。雌は雄と似るが、背、肩羽の灰色みが強い。冬羽は全体に灰色みが強くなる。平地の水辺に多く、市街地の河川でも尾をふりながら昆虫類を探している姿をよく見かける。繁殖期はつがいいでなわばりを守る。</p>	<p>体長：21cm（スズメぐらい） 特徴：日本固有種。ハクセキレイの亜種とする説もある。ハクセキレイとよく似るが、夏冬羽を問わず背から上面、頸、胸、頬などが黒い。河川の中流域で見られることが多く、歩いて昆虫類を探す。繁殖期には人家の屋根や、電線などにとまって「ツツチーチージョイジョイ」などとさえずる。埼玉県ではハクセキレイよりややまれであるが、河川敷や農村部で普通に見られる。</p>	<p>体長：24cm 特徴：頭部は黒く、背と翼は灰褐色。腰は白く目立つ。嘴と脚は橙色で嘴の先は黒い。群れを作る性質が強く、ひなが巣立つ6月ごろから群れを作り始め、冬には大群となり数千から数万となることもある。人里に多く、地上を歩いて食物を探し、おもに昆虫類を食べるが、秋冬には木の実もよく食べる。本来は樹洞に巣をつくるが、人家の戸袋などや巣箱も利用する。</p>

主に春から夏に見られる鳥（夏鳥）

チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>	アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>
		 <p style="text-align: right; font-size: small;">写真提供：青柳 進氏</p>
<p>体長：69 cm 特徴：全身が白色のサギで、日本には主に夏鳥として渡来する。コサギより一回り大きく、ダイサギやコサギに比べ相対的に嘴がやや短くずんぐりして見える。嘴と脚は黒く眼先の黄色が特徴。胸や背に飾り羽がある。河川よりも水田や草地で餌を採ることが多い。環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されているが、埼玉県では夏場最も普通に水田で見られるサギ類。</p>	<p>体長：51cm 特徴：夏鳥として日本に渡来し本州以南で繁殖する。日本に分布する白いサギ類の中では最も小さい。成鳥の夏羽は頭から胸と背にオレンジ色の飾り羽があり大変よく目立つ。嘴はオレンジで脚は黒、コサギに比べ足が短く嘴も相対的に短い。他のサギ類より乾燥した場所を好み、カエルや昆虫などもよく餌として利用する。</p>	<p>体長：17cm（スズメぐらい） 特徴：頭から背、翼、尾は青く光る黒で、額とのが赤褐色で腹は白い。尾は燕尾で長く、先端近くに白斑がある。3～4月にかけて東南アジアから渡ってきて、人家の軒先に椀形の巣をつくる。繁殖期はつがいいで行動するが、繁殖が終わると、その年生まれた若い個体を中心にアシ原に集団ねぐらをつくる。雄は「土食って虫食ってしぶーい」と聞きなされる声でさえずる。</p>



キジ (雉子)

学名: *Phasianus versicolor* Vieillot

桃太郎の童話でもおなじみの、日本の国鳥。オスは顔に赤い肉垂れがあり目立つが、メスは全身褐色で目立たない色彩をしている。

オスはケンケンと大きな鳴き声を出しテリトリー守る。

田んぼの学校バードウォッチングガイド Ver. 1.0

2006年12月 発行

埼玉県環境科学国際センター

自然環境担当

宣伝

WEB版埼玉県生物多様性データベースの紹介

現在、埼玉県環境科学国際センターでは、埼玉県内各地の生物分布情報などを収集したデータベースを構築しています。その一部はインターネットWEBで公開しています。

また、埼玉レッドデータブックや、身近な生き物図鑑なども公開しています。環境学習の材料などとして、是非ご利用ください。

WEB 版埼玉県生物多様性データベースのURL

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BA30/labo/BDDS/BDDSTOP.html>

CESS | BDDS | What's New | Intro | List | Illustrated Book | RDB | Link | Last Update: 2003/01/15

埼玉県生物多様性データベース
The biodiversity database of Saitama Prefecture

新着情報
はじめにお読みください
埼玉県動物リスト
さいたま身近な生きもの図鑑
埼玉レッドデータブック
関連リンク

BDDS

CESS

All Rights Reserved, Copyright (C)2002, CESS
本ホームページ上の文章・資料等の著作権

MENU シラクバト

- 鳥類
- 哺乳類
- 両生爬虫類
- 魚類
- 昆虫

学名 *Streptopelia decacoto*
目科名 鳩目
科科名 鳩科

解説
時期: 一年中
生活型: 留鳥
生息地: 市街地周辺の林、農耕地、河原など
全長: 33cm(11〜15cm)
特徴: 江戸時代より鷹狩りの獲物として放鳥していたものが、野生化したといわれている。一時、環境悪化と乱獲のため激減したが、1956年に天然記念物に指定されて保護された結果、現在では1000羽前後に増え、埼玉県狭谷町を中心に分布している。群がづいたり、地上を歩いて、おもに種子や穀物などを食べる。

記録地図

CESS | BDDS | What's New | Intro | List | Illustrated Book | RDB | Link |

埼玉県
レッドデータブック
SAITAMA pref. Red data book

MENU	分類群	和名	学名	埼玉県 種別名	TUGN
(改訂2002) 動物編	クモ類	アレーグモ	<i>Araneus pinguis</i>	GA	
	クモ類	アケボノウレイグモ	<i>Spermophora siekora</i>	LP	
	クモ類	アンヘガカニグモ	<i>Heliopsis melleitai</i>	NU	
	クモ類	オオドリノフンダグモ	<i>Cyrtarachne itaeusalis</i>	NT	
	クモ類	オビボンカニグモ	<i>Xysticus trizonatus</i>	NT	
	クモ類	カネコタテグモ	<i>Anrodiaetus roretzi</i>	NT	NT
	クモ類	キヌエトタテグモ	<i>Latouchia swinhoei</i>	NT	NT
	クモ類	キヌキリグモ	<i>Leptyphantes cericeus</i>	NT	
	クモ類	キノボリタテグモ	<i>Ummidia fragaria</i>	NT	NT
	クモ類	ダホウグモ	<i>Po'tys illepidus</i>	NT	
	クモ類	ムラサキグモ	<i>Argiope amoena</i>	EN	
	クモ類	サンロウドウグモ	<i>Meta japonica</i>	LP	
	クモ類	シロオドリノフンダグモ	<i>Cyrtarachne nagasakiensis</i>	NT	
	クモ類	タニマドヨウグモ	<i>Metleucauge kamipiraiensis</i>	EN	
	クモ類	トグタグモ	<i>Gasteracantha kuhii</i>	NU	
	クモ類	トリノフンダグモ	<i>Cyrtarachne lulu</i>	NT	
	クモ類	...	<i>Araneus</i>	...	

CESS | BDDS | What's New | Intro | List | Illustrated Book | RDB | Link |

さいたま身近な生きもの図鑑

MENU ウスバシロチョウ

- チョウ類 1
- チョウ類 2
- トンボ類
- その他昆虫
- 鳥類
- 両生爬虫類

時期: 年1回、4〜5月に発生
生息地: 山地・丘陵地周辺の開けた草地、畑、林、新田、埼玉県においては八高線以西が生息地
大きさ: 2.0〜3.8mm
食草: ケシ科のムラサキケマン、ジロホウエンゴサクなど
特徴: 一見シロチョウ科の種に似ている。林に続く明るい草地などで、緩やかにあまりはばたくことなく飛び、陽がかげると不活発になり、近くの手トこまる。卵は付近の石や枯葉に産み付けられる。近年、伐採地拡大により生息地が広がっている。

ジャコウアゲハ

時期: 本州の暖地では、年3〜4回発生、4〜11月に発生
生息地: 牧草の生育する河川の土手や田圃の畔など
大きさ: 4.2〜6.0mm
食草: ウマノスズクサ科のウマノスズクサ、ズイノハハスズクサ
特徴: 翅は地色が黒色、翅は灰褐色。捕まえると鮮やかな香気を出すことから、この名が付いた。川原の土手など湿潤なやみに低く飛ぶ。食草の有毒成分を体内に含むため、鳥に襲われることが少ない。また、他のチョウの擬態の対象となっている。俗名「山女郎」、鱧は「お荷虫」

担当：埼玉県環境科学国際センター
自然環境担当 嶋田知英
E-mail : a0173949@pref.saitama.lg.jp